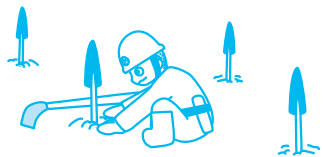


# 山のお手入れ

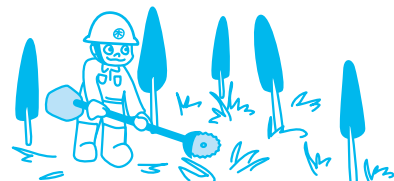
文/高橋 淳子

良い木を育てるためには、やはりそれだけの労力が必要です。そして良い木を育てるための作業は、山林の環境保全、ひいては私たちの生活環境を整えてくれる作業でもあります。日本の林業技術は世界一!とも言われています。木の文化を持つ日本の森林には、昔から培われてきた知識が潜んでいます。

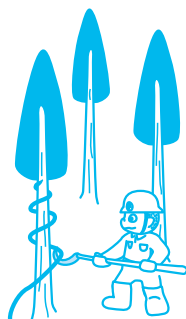


**植付(植栽)** 時期:春(3月~梅雨まで)  
木の苗を1坪=3.3m<sup>2</sup>あたり1本、クワで丁寧に植えます。1haでは3,000本になります。作業量は1日に1人200~250本!せっせと植えます。

**補植** 時期:植栽した翌年の春  
植えた苗が気象や動物等によって害を受けてうまく育たなかったときに、苗を植え足すこと。



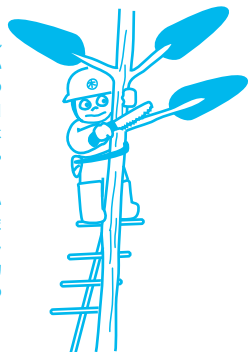
**下刈り** 時期:植栽後4~5年は6月と8月の2回、7~10年は7月または8月に1回  
1年のうち、春から夏のお手入れで、植栽した苗木の生育を妨げてしまう雑草木の刈り取り作業です。苗木が大きくなるまで数年間続けます。下刈りが必要な期間は、環境条件によって異なりますがスギやヒノキの場合7~10年ほど。大きくなれば~



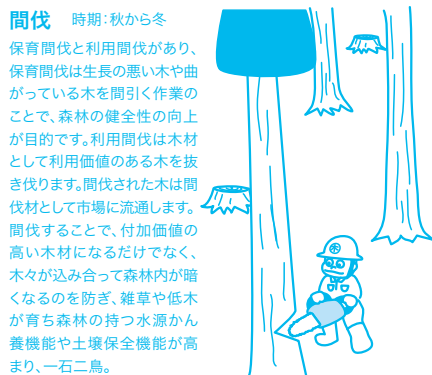
**つる切り**  
時期:下刈りと同じ  
植えた木がそのらの雑草木に負けにくい生長すると、次に必要となるのがつる切りと除伐。つる切りは下刈りのあと、2、3年に2回くらい行います。



**除伐** 時期:植栽後10~15年の秋から冬  
植栽した木の生長を妨げる可能性のある樹木を切る作業です。最近は植栽した木で曲がって成長してしまった木や、成長の悪い木も伐ります。



**枝打ち** 時期:秋から冬  
木を伐るまでに3回程行われます。1度目は木が3mくらいに生長したら1.5m~2mの高さにある枝を落とし、2回目は3メートルの高さ、3回目は6~7mくらいの高さにある枝を落とします。枝打ちすることで、節のない木材をとることができます。また、太陽の光が林内まで差し込み、地表でいるいるな植物が生育するので、森林機能の維持にも必要な作業。



**間伐** 時期:秋から冬  
保育間伐と利用間伐があり、保育間伐は生長の悪い木や曲がっている木を間引く作業のことで、森林の健全性の向上が目的です。利用間伐は木材として利用価値のある木を抜き伐ります。間伐された木は間伐材として市場に流通します。間伐することで、付加価値の高い木材になるだけでなく、木々が込み合って森林内が暗くなるのを防ぎ、雑草や低木が育ち森林の持つ水源かん養機能や土壌保全機能が高まり、一石二鳥。

# 収穫

スギは50年もすると大きく育ち、建築材などに利用できる収穫時期=伐期を迎えます。伐期を迎えた木は、ぐんぐん生長していたときに比べて二酸化炭素を吸う量が減ってきて、花粉も多く飛ばすようになります。定期的に木を伐って新しい苗を植える、というサイクルは私たちにとって良い環境をもたらしてくれます。

## 主伐

伐期に達した木を伐って収穫すること。皆伐と択伐があり、皆伐は一定の広さにある全ての木を伐り、択伐は一定の幅の帯状に伐採したり、1本ずつ抜き伐ったりすることをいいます。木を伐り出したあと、また新しい木の苗を植えて木を育てることを更新といいます。主伐ラッシュは秋冬期間中。なんでもこの時期に伐られた木は虫がつきにくいんだそう。

## 玉切り

立木を伐って枝を落とした後、幹の太さや曲がり、節などの木のクセを見極め、用途に応じた長さの丸太にすること。通常3m、4m、6mの丸太に切られます。

## 受口

木を伐るときに、まず倒したい方向に切り込む、切り込み口のこと。受口をつけることで木が裂けるのも防ぎます。

## 追口

受口をつけた後、その反対側、少し上に切り込みをつける、切り込み口のこと。

